

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 商業販売統計(2008年3月)

発表日2008年4月28日(月)

～物価上昇の影響を除けば、横ばい圏内での推移が持続～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 柵山 順子
 TEL : 03-5221-4548

(単位: %)

		商業販売額		卸売業		小売業		大型小売店			コンビニ販売額			
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店 前年比	百貨店 既存店 前年比	スーパー 既存店 前年比	前年比	既存店 前年比	
														前年比
06	3月	3.3	▲ 3.5	4.0	▲ 4.7	1.1	▲ 0.2	▲ 0.0	▲ 0.3	1.8	▲ 1.9	0.7	▲ 2.6	
	4月	3.6	2.4	5.1	3.2	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 0.6	▲ 0.9	▲ 0.4	▲ 1.3	▲ 1.8	▲ 5.0	
	5月	6.6	1.3	8.8	1.5	0.1	0.7	▲ 0.9	▲ 1.6	▲ 1.2	▲ 1.9	0.2	▲ 2.9	
	6月	4.4	0.2	5.7	0.2	0.2	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 1.2	▲ 1.9	▲ 0.7	3.2	0.6	
	7月	4.8	▲ 0.9	6.4	▲ 0.9	▲ 0.1	▲ 1.2	▲ 1.0	▲ 1.4	▲ 1.4	▲ 1.3	▲ 2.4	▲ 5.2	
	8月	5.6	5.0	7.0	6.4	1.0	1.3	0.6	0.1	▲ 0.8	0.7	0.8	▲ 1.8	
	9月	3.2	▲ 6.5	4.0	▲ 8.2	0.5	▲ 1.5	0.8	0.8	1.3	0.4	▲ 0.8	▲ 3.4	
	10月	6.0	5.1	7.9	6.9	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 1.7	▲ 1.7	▲ 2.0	▲ 1.4	2.0	▲ 0.6	
	11月	3.5	▲ 0.8	4.7	▲ 1.2	▲ 0.3	0.2	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 0.3	▲ 1.2	1.1	▲ 1.5	
	12月	2.2	▲ 1.1	2.9	▲ 1.4	▲ 0.2	0.0	▲ 1.6	▲ 2.4	▲ 2.2	▲ 2.6	2.2	▲ 0.2	
	07	1月	2.2	0.7	3.3	1.1	▲ 0.9	0.6	0.6	▲ 0.5	0.0	▲ 0.9	1.7	▲ 0.7
		2月	3.0	1.9	3.9	1.6	▲ 0.2	0.7	1.5	0.5	1.5	▲ 0.1	1.3	▲ 1.1
3月		1.3	▲ 3.0	1.9	▲ 4.4	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 0.2	▲ 1.1	▲ 1.5	▲ 0.8	0.9	▲ 1.4	
4月		4.3	3.4	5.8	5.4	▲ 0.7	0.3	▲ 0.7	▲ 1.8	▲ 1.4	▲ 2.0	1.6	▲ 0.6	
5月		5.9	1.8	7.7	2.2	0.1	0.3	0.3	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 0.9	1.7	▲ 0.6	
6月		4.1	▲ 0.7	5.4	▲ 0.8	▲ 0.4	▲ 0.3	1.9	0.9	5.1	▲ 1.9	▲ 2.0	▲ 4.2	
7月		4.0	▲ 0.9	5.9	▲ 0.6	▲ 2.3	▲ 1.9	▲ 2.5	▲ 3.8	▲ 4.4	▲ 3.4	2.1	▲ 0.2	
8月		3.0	0.9	3.8	0.3	0.5	3.0	1.7	▲ 0.1	1.1	▲ 0.8	2.1	▲ 0.2	
9月		1.1	▲ 1.3	1.2	▲ 1.9	0.5	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 2.0	▲ 2.7	▲ 1.5	2.1	0.0	
10月		4.4	2.0	5.4	2.7	0.8	0.4	▲ 0.1	▲ 1.7	▲ 1.6	▲ 1.8	0.9	▲ 1.2	
11月		4.1	▲ 0.3	4.8	▲ 0.4	1.6	0.1	1.9	0.4	0.8	0.1	1.7	▲ 0.6	
12月		2.2	▲ 0.5	2.8	▲ 0.3	0.2	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 1.5	▲ 2.2	▲ 1.0	0.6	▲ 1.3	
08	1月	3.7	0.6	4.5	0.8	1.3	0.8	▲ 0.8	▲ 2.0	▲ 2.1	▲ 2.0	0.1	▲ 1.6	
	2月	5.6	▲ 0.2	6.3	▲ 0.4	3.2	▲ 0.9	2.7	1.2	1.0	1.4	3.4	▲ 0.5	
	3月	1.7	▲ 2.3	1.8	▲ 3.8	1.1	0.5	1.8	0.2	▲ 1.2	1.2	1.2	▲ 0.6	

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

○3月の小売業販売額は前年比+1.1%

3月の小売業販売額は前年比+1.1%と8ヶ月連続で前年を上回り、事前コンセンサス(同+1.0%、レンジ: +0.5~+2.2%)通りの結果となった。前年対比では前月(同+3.2%)から大幅に鈍化する形となったが、これは前月が閏年効果により押し上げられていたためである。前月比では+0.5%とプラスの伸びになっており、閏年要因や燃料価格高騰の影響を除けば、おおむね横ばい圏内の動きが続いていると言える。

○原油価格高騰に伴う燃料小売業の高い伸びが続く

小売業販売額を業種別にみると、織物・衣服・身の回り品小売業を除く6業種が前年比プラスとなった。もっともプラス幅が大きかったのは燃料小売業(前年比+4.0%)であり、自動車小売業(前年比+2.4%)、機械器具小売業(同+1.7%)などが高めの伸びとなった。自動車小売業は引き続きフィットなどの新車投入効果が持続し堅調さを維持した。一方、燃料小売業については、石油製品価格の高止まりが影響しているので割り引いて考える必要がある。

○大型小売店販売額(既存店)は物価上昇の影響で2ヶ月連続で増加

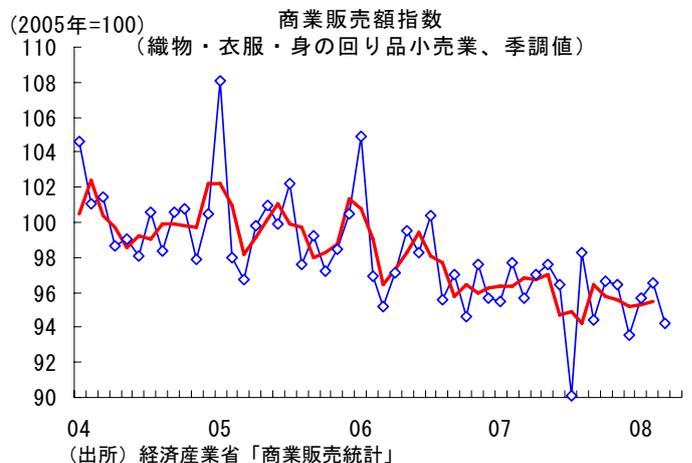
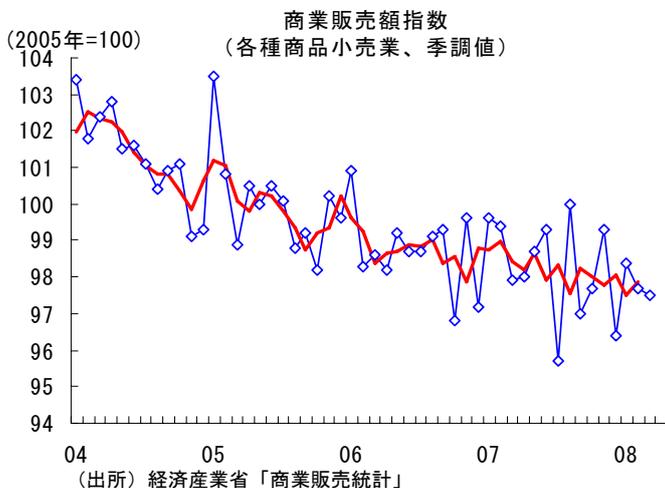
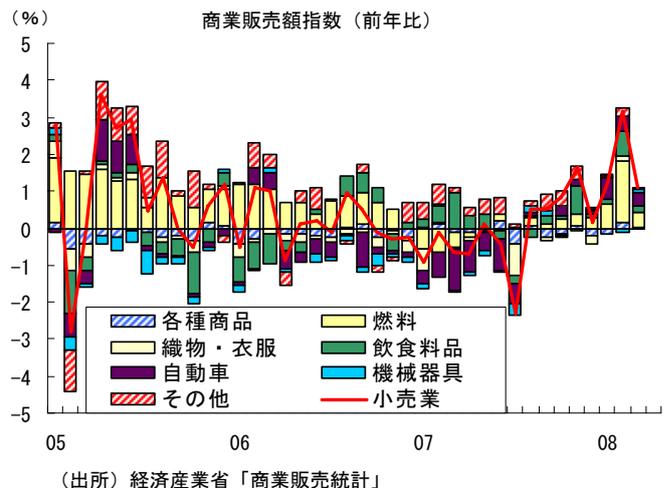
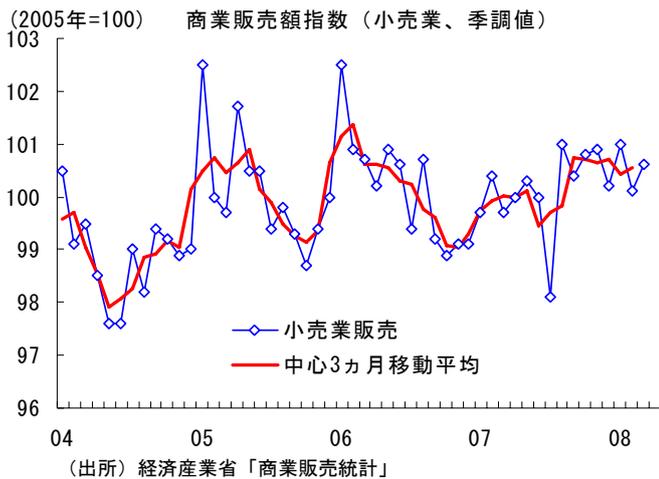
大型小売店販売額は前年比+0.2%(既存店)と前月(同+1.3%)から伸びが大きく鈍化するも、前年比

プラスを維持した。内訳は、百貨店が前年比▲1.2%、スーパーが同+1.2%である。百貨店は、月前半の気温が低めだったことにより春物衣料の動きが遅れたことに加え、株安の影響などから美術・宝飾・貴金属なども前年を下回った。3月は前年に比べて1日日曜日が多かったにもかかわらず、ほぼすべての項目で前年比マイナスとなるなど、弱い結果であったといえる。スーパーについても百貨店と同様に春物衣料が落ち込んだが、主力の飲食料品については営業日の増加や野菜の相場高などから2ヶ月連続でのプラスとなった。飲食料品のプラスは、天候不順による野菜の相場高や乳製品などの値上げの影響も大きいとみられ、スーパーの実態については割り引いて考える必要があるだろう。一方、コンビニエンスストアの販売額は前年比▲0.9%（既存店）と客単価の低下などにより前年を下回った。

大型小売店販売額は2ヶ月連続での前年比プラスとなったが、食料品などの物価上昇に押し上げられている面を差し引けば、回復に力強さがみられない状況に変化はない。

○個人消費については回復感に乏しい状況が続く

生活必需品価格の高止まり、雇用・所得環境の改善の足踏み、不安定な株価、大幅に悪化している消費マインドなど、個人消費を取り巻く環境は芳しくない。小売業販売額も足元では横ばい圏内の動きが続いており、悪化こそしていないものの、回復感に欠ける状況にある。1-3月期の個人消費（GDPベース）については閏年要因などもあり、高い伸びとなる可能性が高いものの、実態としての個人消費は緩やかな拡大にとどまる可能性が高いだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

